

第 2 回 富士見市文化芸術振興委員会議事録

日 時	平成 2 9 年 1 1 月 2 1 日 (火) 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0						
会 場	鶴瀬コミュニティセンター						
出 席 者	加藤	氣賀澤	高野	上川	吉川	野村	佐藤
	○	○	○	○	○	○	○
	水野	肥田	関 (知)	田中	長坂	関 (仁)	渡邊
	○	○	○	○	×	○	○
	事務局：地域文化振興課 中嶋課長、佐藤主査、田中主事						
1	開 会						
2	委員長挨拶 加藤委員長						
3	議 事						
	<p>(1) 平成 2 8 年度アクションプランの評価について 事務局より平成 2 8 年度アクションプランの評価方針について、各事業の評価を行うのではなく、基本目標・施策の柱に対する達成度の評価を実施する旨の説明を行った。協議事項は以下の通り。</p> <p>委 員) 評価の時期は決まっているのか。 事務局) 年度内を想定している。</p> <p>委 員) 文化芸術基本法の改正に当たり、改正内容も加味した計画の見直しとなるのか。 事務局) 見直し自体は来年度実施するので、改正内容も踏まえた見直しとなる。当市に当てはまる部分、当てはまらない部分は当然出てくると考えているので、本委員会でも協議したい。また、アクションプランのありかたについても、いかにわかりやすく、評価しやすくするための検討が必要と考えている。</p> <p>委 員) 施策の達成評価について、「遅れがある」と書かれているが、何に対して遅れているとするのか。 事務局) 評価の基準にはまだまだ検討の余地がある。文化芸術振興基本計画に対してどうだったかという視点も一つの見方である。</p> <p>委 員) 我々は今までの評価のために集まっているのか。基本目標・施策の柱に基づく新しい試みを検討し、実施する集まりではないのか。 事務局) 委員会の役割として、計画の進行管理がある。来年度は計画の見直しが主な活動となるが、その中で不足している部分を補う新しい試みについてのご意見を戴きたい。</p> <p>委 員) 委員が参加していない事業も存在するので、評価そのものが難しいのではないのか。 事務局) 個別の事業を評価するのではなく、目標に対してどの程度達成</p>						

されたかを評価したいと考えている。委員会で出された意見を庁内の委員会に諮るなどして、政策決定に向けて取り組みたい。

(2) 文化芸術振興基金の活用検討について

事務局より、文化芸術振興基金の概要、本市を含めた自治体の奨励金・補助金・助成金の事例等について説明を行い、基金の有効な活用について意見を募った。協議事項は以下の通り。

委員) 市内の音楽家が毎年行っているニューイヤージャラコンサートでは、市内小中学生に客席を開放したり、オーケストラを呼ぶなど新しい試みを行っている。そういった試みには当然金銭的負担が発生し、入場料だけでは賄いきれない部分もあると思う。市民が優れた文化芸術に触れる機会を提供しているこういった催しにこそ補助金を出すべきと考える。

委員) 基金の成り立ちと積み立ての状況と、文化芸術に関連する予算がどのようになっているかを知りたい。

事務局) もともと平成元年にふるさと創生資金を原資として基金が設立され、その後山崎公園の整備の関係で繰り入れを行うなどあり、現在では利子の積み立てのみの運用となっている。利子の額としては年間で6万円程度。文化芸術に関する予算に関しては地域文化振興課が担当する条例・基本計画に基づいた子ども文化芸術大学☆ふじみや小学校合唱団講師派遣事業、今年は新たに舞台芸術鑑賞会実行委員会を組織するなど、年々文化芸術に関連する予算は増加している。

委員) 県の文化振興基金を使用し、キラリふじみで発表会を行った。小さいサークルに対しても補助金を出してくれて、非常にありがたかった。市の補助金としても検討してほしい。

事務局) 申請・審査のプロセスにはまだまだ検討の余地がある。すべての申請に対して補助金を出すわけにはいかないの、何らかの基準は必要である。

委員) 全国レベルの大会での入賞者に対し、奨励金を出すのが現実的ではないか。

委員) 他自治体から見て、富士見市の文化芸術に対する評価はどうか。

事務局) 市の文化芸術発信拠点として位置づけられているキラリふじみは全国的に高い知名度がある。また、市民の自主的な活動も活発に行われている印象である。

委員) 子どもたちの感性を育むための事業を行っている学校に対して補助金を出すことも検討してほしい。

委員) 市内学校の合唱部を集め、市の合唱団として活動していくことも面白い試みだと思う。

委員) 補助金の対象範囲については文化芸術基本法でとらえている範囲を洗い出し、市として検討した方が良いのではないか。また、この基金が市民にどの程度知られているのかは疑問。周知にむけた取り組みが必要。

委員) 基金の活用に向けた協議は今後も行えるのか。

事務局) 今後も行いたいと考えている。最終的には行政の決定となるが、委員会からの意見をできる限り反映させたい。

委員) 素案を出してはもらえないのか。

事務局) 庁内委員会でも検討するとともに、制度設計については本委員会でも協議したい。

(3) その他

次回開催日程について

時期については来年1月を予定とし、日にちについては委員長及び副委員長と調整の上、改めて通知することです承された。

4 閉会 閉会あいさつ 氣賀澤副委員長

以上